

## 4 令和6年度 東京都立大森高等学校 学校経営計画

### (定 時 制 課 程)

校 長 池 田 美 穂

#### I 目指す学校

##### 1 スクール・ミッション

「敬愛・誠実・努力」の校訓のもとに、心身の健全な発達を図り、良識ある有益な人物を育成します。生活規律・授業規律を重視し、誰もが安心して学べる環境を確保するとともに、地域に根差し、信頼される学校を目指して、生徒一人一人のニーズを的確に把握し、適切な支援を行うことで、自立や社会参加に必要な資質と能力を育成します。

##### 2 教育目標

- (1) 豊かな個性と自主・自立の精神をそなえた生徒を育成する。
- (2) 正義と自由を尊び、規律を守る生徒を育成する。
- (3) 社会へ奉仕する心や他者に対する思いやりの心を持ち、人権感覚を備えた生徒を育成する。

##### 3 スクール・ポリシー

アドミッション・ポリシー  
(求める入学生  
生の姿)

- ・ア 授業を大切にし、基礎・基本的な学習から積極的に学び、社会生活に必要な知識や態度を身につけようとする生徒
- ・イ 学校のルールを守り、他者を思いやりながら学校生活を大切にしようとする生徒

カリキュラム・ポリシー  
(教育課程の  
編成及び実施)

- ・ア 豊かな社会生活を送る上で必要な基礎・基本の学力から高校卒業生として身につけるべき学力を段階的に身につけられるようにする。
- ・イ 日本語を母語としない生徒には、「取り出し授業」に加え、「特別の教育課程」による日本語指導を実施して、生徒の学習及び生活上の課題に対応する。
- ・ウ 社会的自立を促すために、実技や実習の充実を図る。また、特別活動等を通してコミュニケーション能力を育成する。

グラデュエーション・ポリシー  
(育成を  
目指す資質・  
能力)

- ・ア 望ましい社会生活を送る上で必要な資質と能力を備えた生徒。
- ・イ 心身ともに自らの健康を保持増進できる能力を持った生徒。

#### II 中期的目標と方策

目標	方策
ア 学習の保障 基礎的基本的な教育内容の定着	①わかる実感のある授業、実験・実習の重視、デジタル機器の活用推進 ②自立や社会参加、進路実現につながる指導方法の工夫
イ 心身の育成 人権意識、規範意識の醸成と自他の尊重 安心安全で居心地のよい学校づくり 心身の強化と社会資源との連携	①人権意識の醸成と安心安全な学習環境の確保 ②特別活動を通じた役割意識の醸成と成功体験 ③TPOに応じたマナーの意識の育成 ④給食を通じた食育の推進 ⑤積極的に運動に親しむ体力向上と健康の増進

ウ 情報化・国際化の推進 デジタルスキル、グローバルスキルの向上 学校、個人問わず様々な事業への積極的参加	①一人1台端末の効果的活用の推進 ②日本語支援の取組の推進 ③英語で伝えようと努力する態度の育成 ④実地、オンライン問わず、学校外の様々な公開事業への積極的参加の促進
エ 自己実現・進路実現の推進	①特別活動、部活動への積極的参加の促進 ②保護者連携の推進 ③医療、福祉、カウンセリング、ソーシャルワーク等の専門性の高い人材や組織・機関との連携 ④SNS等の適正利用指導と躊躇しないSOS発信力の育成 ⑤地域連携の促進による学校の存在感向上

### Ⅲ 今年度の取組目標と方策、数値目標

	目標	方策
(1) 教育活動・学校経営全般	ア 様々な文化のシャワーを惜しみなく注ぎかけることで、在学中の学習意欲を喚起し、卒業後も生涯に渡り学び考え行動できる生徒を育てる。 4年間在学する定時制教育の良さを最大限取組に生かす。 イ 全ての教職員が主体的に学校経営参画意識をもち、それぞれの役割を確実に果たしながら、建設的な改善提案のできる職場風土を醸成する。 ウ サービス事故ゼロ、学校事故ゼロを実現する。  エ 生徒の心身の健康保持増進のために、教育活動に取り組む教職員の適正なライフ・ワーク・バランスを図る。 オ 経営企画室機能を最大限活用し、人財や施設設備等の校内資源を最大限活用しながら、教育環境の向上を図る。	①東京都教育委員会による指定「スキルアップ推進校」「SIP（理数教育推進）拠点校」「安全教育推進校」の取組と教育課程との確実な連携を図る。 急がずじっくりと個に応じた丁寧な指導を行う。 ②前例踏襲に陥らないよう、各種会議の機能強化を図るとともに、効果的な校内研修を実施する。 ③教職員が高い倫理観と公務員としての自覚を持ち、体罰や個人情報紛失等の不適正事象を起こさない職場環境を維持する。常に生徒の安全に配慮した予防的開発的指導を行い、学校事故を防止する。 ④教育のDX化の適切な推進と正副担当の分担に従い、随時の情報共有と引継ぎを大切にし、職務の属人化を防ぐ。 ⑤職員室と経営企画室の連携を推進し、清潔で安全な学校施設を維持する。自律経営予算を適切に執行管理するだけでなく、生徒会や学年積立金等の私費についても適正に管理し活用する。
	・ SIP拠点校催事参加者2名以上	・ 一般需用費学校経営支援センター集約率70%以上
(2) 学習指導	ア 日々の授業を大切にすることで基礎基本の学力の確実な定着を図る。 イ 知識・技能だけでなく主体的に学びに向かう力を育成し、自ら考えて課題解決に至ることができるよう、思考力・判断力・表現力を鍛える。 ウ 情報機器を適切に活用し、収集した情報について有用性や正誤の判断を自ら行いながら取捨	①授業規律を維持し、毎回の授業時間中に学びの実感を得させる。「生徒による授業評価」を活用する等、効果的な指導法の共有や研修を行う。 ②グループ形式の討論・発表・レポート作成等、個人にとどまらず他者との交流を通じて、多様な価値観に触れ、考える機会を設定する。生徒が自己の変容を記録し振り返りができる工夫をする。 ③双方向オンライン授業の実践、端末による課題発出と提出、画像による実験実習の記録と考察

	選択して理解を深め、発信ができる力をつける。	等、単純な機器操作にとどまらない機器活用を実践する。
	・全教科で一人1台端末活用が年間授業数の50%	・生徒の「学力がついた」と感じる割合80%
(3) 生活指導	<p>ア ルールとマナーの必要性を理解させ、人権と生命を尊重する、礼儀正しい森高生であることを求め続ける。</p> <p>イ 生徒が自らの未熟さと相手の立場とを理解し、適切なコミュニケーションがとれるように考えたり実践したりする場を設ける。</p> <p>ウ 時間を意識して行動し、準備を怠らない。</p> <p>エ 清掃や整頓に進んで取り組み、居心地のよい校内環境を維持する。</p>	<p>①生徒、教職員共に挨拶を励行し、教職員が大人として生徒のよきモデルとなる言動を取る。また、夜間の登下校となる生徒が自らの命を守るため、自転車乗車時ヘルメット着用を推進する。</p> <p>②特別活動や部活動等、様々な機会をとらえ、人間関係の構築には、適切な距離感や言動が必要であることを学ばせる。異年齢集団であることを強みと捉えて指導に生かす。</p> <p>④遅刻欠席の削減、授業規律の維持に取り組む。規則正しい生活習慣が学力向上と進路実現につながる。</p> <p>⑤全員が協力できる利他の意識を育成し行動させる。全校で居心地よい環境を作る。</p>
	・自転車通学者ヘルメット年間着用率90%	・遅刻者数1日2人以下 ・退学者0人
(4) 進路指導	<p>ア キャリア教育の観点から授業や特別活動と「総合的な探究の時間」を意図的計画的に関連付け、単なる出口指導にとどまらない進路指導を行う。</p> <p>イ 学年進行に応じた計画的な指導を行い、個に応じた丁寧な対応を継続することで、進路希望を諦めさせない。安易に転退学の選択をさせない。</p> <p>ウ 進路実現が日々の学習や学校生活と一体化したものであることを意識づける。</p> <p>エ 公募される様々な機会をとらえ、生徒にとって生涯にわたり知識を広め経験を深めるチャンスであることを教職員が意識し、紹介する。</p>	<p>①進路指導部と学年との連携を密にし、迅速に情報と指導計画を共有し目標と成果の点検、改善を行う。「スキルアップ推進校」の取組を活用する。資格取得を推進する。</p> <p>②中学段階や前籍校で作成したキャリアパスポートを踏まえ、本校入学後の高校段階のキャリアパスポートとなるべく、在学中の進路指導や個別面談のポートフォリオ化を図る。</p> <p>③各学年で三者面談を実施し、生徒・保護者との認識のずれを防止する。保護者の進路学習の場とする。</p> <p>④「S I P 拠点校」「スキルアップ推進校」等、希望者参加型の取組にも積極的な興味関心を持たせる。</p>
	・ジョブキャンプ参加者3名以上	・進路決定率80%以上
(5) 特別活動 ・部活動 ・教育相談	<p>ア 教職員は正しく「いじめ」の定義を理解し、生徒間のいじめ防止、早期発見、早期対応に取り組む。</p> <p>イ HRや行事を通じ、協力や助け合いの経験を通じ多様な価値観や立場の違いを知り、社会で生きる力を育成する。</p> <p>ウ 安全教育推進校として防災教育の充実に取り組む。</p> <p>エ 自己の興味・関心に応じて文化・スポーツを</p>	<p>①「生徒指導提要」「いじめ総合対策」等の基本事項を踏まえ、本校の学校安全計画・人権教育の全体計画等を推進する。</p> <p>②文化祭・校外学習等の行事において取組目標を明確にした指導を行い、授業や「探究」との意図的関連付けを図る。</p> <p>③生徒だけでなく教職員が自校の防災関連資源に習熟し、既存の防災訓練の内容の充実に図る。自助共助の考えに基づき、自らの生命を守るだけでなく、地域連携や奉仕的活動等の社会に貢献する意識を育成する。</p> <p>④「S I P 拠点校」等の指定を活用し、生徒の多</p>

	<p>楽しんだり、努力して成果を得る体験をしたりする場を多数設定し、学校の居心地を高め、心身ともに健康で明るい学校生活にする。</p> <p>オ 特別支援教育への理解を深め、組織的な教育相談体制を構築する。</p> <p>カ 給食の喫食率を高め、食育を推進する。</p>	<p>様なニーズに応じた活動を提供する。また、部活動に積極的に所属し活動することを通じ、技術の向上や達成感だけでなく、良好な人間関係の構築や自己有用感の体得の場とする。</p> <p>⑤特別支援学校との地域ネットワークを活用して発達特性への適切な対応への理解を深める。また、自立支援チーム継続派遣校として、スクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーと連携して生徒を支援し、進路実現を図る。</p> <p>⑥食の意識を高めることと基本的な生活習慣の確立とが密接に関連していることを踏まえて、生徒を指導する。保健や家庭の授業とも関連付ける。</p>
<p>・部活動加入率 80%                      ・SC、YSW活用のべ15人                      ・給食喫食生徒数 70%</p>		
<p><b>(6)</b> <b>募集</b> <b>広報</b> <b>活動</b></p>	<p>ア 学校説明会・見学会だけでなく、中学校訪問や地域交流行事等に積極的に参加し、学校の露出を増やす。</p> <p>イ 生徒の姿が見える広報活動を意図的に計画する。</p> <p>ウ 学校ホームページだけでなく、SNSを活用し、積極的な情報発信を行う。</p> <p>エ 視覚情報の充実した広報媒体を作成する。</p> <p>オ 夜間定時制ならではの、の特色をアピールする。</p>	<p>①教職員全員が複数回参加の全校態勢で取り組む。自校企画で地域との交流を行う。</p> <p>②地域に支えられ選ばれる学校となるために、教育活動を積極的に公開する。</p> <p>③「都立学校魅力発信事業」による広報媒体と積極的にリンクさせる。機を逃さず随時情報の更新を図る。</p> <p>④受け手の立場になって考え、ポスターやパンフレットの質を高める。</p> <p>⑤少人数・短時間×4年間・学び直し・異年齢・私服登校・アルバイトの推進等、全日制とは異なる良さに注目して積極的にアピールする。</p>
<p>・地域交流行事 2回以上                      ・HP更新 200回、ツイッター発信 100回</p>		